過去とは違う国である

小学生の時、地元の野球チームに入っていました。とある日、いつものように一個上の友達とため口で話をしていたら、監督に「年上には君を付けて、敬語で話しなさい」と言われました。その日以来、仲が良かった友達とは、不思議と壁を感じ、今までのように接する事が出来なくなりました。

皆様は敬語が必要だと思いますか？

アメリカの会社でインターンをしていた時、同僚や先輩の社員は私よりも一回り二回り以上年上でしたが、英語と言う敬語の無い言語であったがゆえ、気兼ねなく会話をする事が出来ました。そんな他愛のない会話から行く行くの生産性に繋がるような、意見やアイデアは交換され、信頼関係も生まれました。

そして、会社には年の離れた日本人の社員がおり、その人達とは敬語で話していたわけですが、敬語であったがゆえ、スムーズに自分の意見を言う事が出来ず、壁を自らが作っていた気がします。

アメリカ人の社員に英語で話すのと、日本人の社員に敬語で話すのとでの私自身の人の変わりように驚きを感じたのと同時に、敬語の必要なさを痛感しました。

言語が人を作るとでも言っておきましょうか。

敬語の発祥は６０３年に聖徳太子が「冠位十二階」と言う制度を決めたのが始まりらしいです。この制度の一環として、朝廷に仕える人を十二のランクに分けて、自分よりもランクが高い人には敬語を使うと。

約１４００年前に始まった敬語がいくつもの時代を超えて、未だに使われている…どうでしょう？もう敬語はやめませんか？

歴史を勉強する理由の一つとして、「過去から解放されるため」と言う考え方がございます（引用：Homo Deus）。敬語の発祥や、今まで続いて来た経緯に崇高な理由が無い上、敬語そのものにメリットが無い今、敬語を使う理由がどこにあるのでしょう？

もちろん、千年紀と続いた風習を今日明日で変える事は難しいでしょう（リンディ効果）。しかし、国を変えるとは言わずとも、周りの友人達や社内、それこそ地元の野球チームのような小さな円の中であれば、過去から自分達を解放する事が出来るのではないでしょうか？

The past is a foreign country; they do things differently there

過去とは違う国であり、そこでは何もかもが違う

-L.P.ハートリー

と言うように、「今の日本と過去の日本は異国であり、彼女ら彼らは異邦人である」と見方を変えてみたら、考え方も変わったりしませんか？

私の人生の中で最も楽しかった時期が中学３年生の時でした。硬式野球のチームで、最上級生となり、敬語を撤廃しました。そうなると、立場やランクなどは無くなり、敬語など無くて年齢など関係無かった小学生の時のような、そんな人間関係に戻る事が出来ましたとさ…。